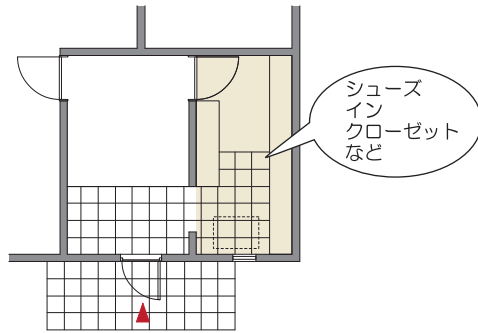


# つくり方・住まい方のポイント

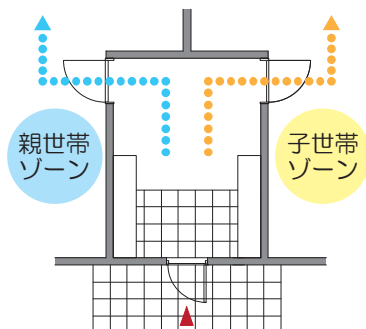
## 玄関

### 共有

- 二世帯分の靴・傘に加え、スポーツ用品・ベビーカーなど物があふれがちになります。十分な収納を確保しましょう。

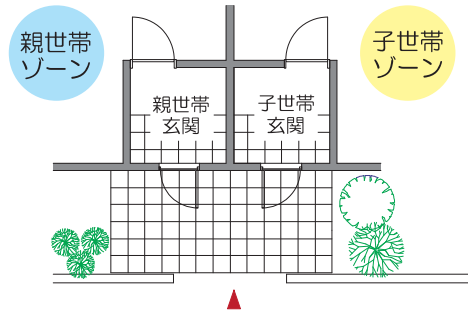


- 帰宅が遅い家族がいる場合、玄関と寝室を離すなどの配慮が必要です。
- 玄関のみ共有する場合、それぞれの居住スペースへの動線が交わらないようにするプランニングの工夫が必要です。

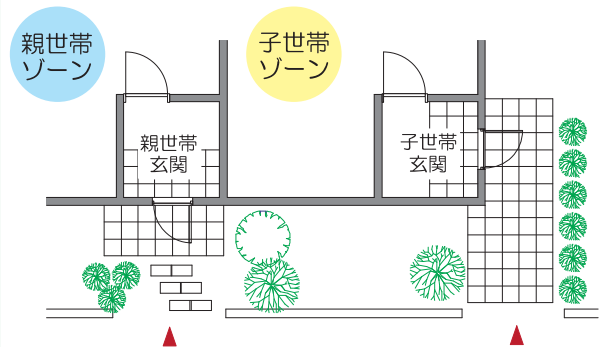


### 分離

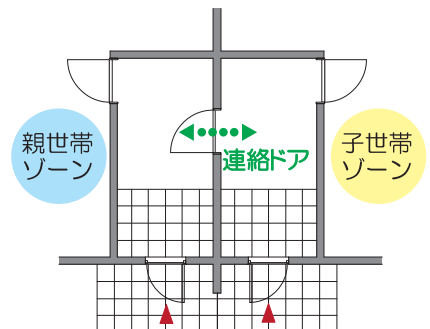
- 両世帯の玄関を近くに配置し、アプローチを共有すると一体感が出ます。



- 玄関とアプローチを分離すると独立感が出ると同時に、将来の賃貸にも対応しやすくなります。



- 玄関を分離すると二世帯の行き来がしにくくなります。ちょっとした用事でわざわざ靴を履いて行ったり、雨の日は一度外に出るのは面倒なので、室内で行き来ができる「連絡ドア」があると便利です。

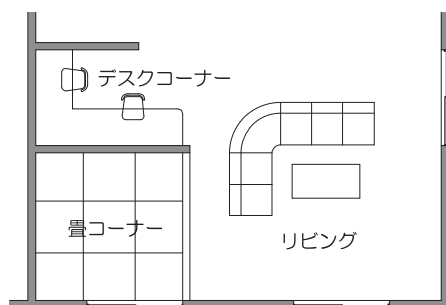


## 共有

## 分離

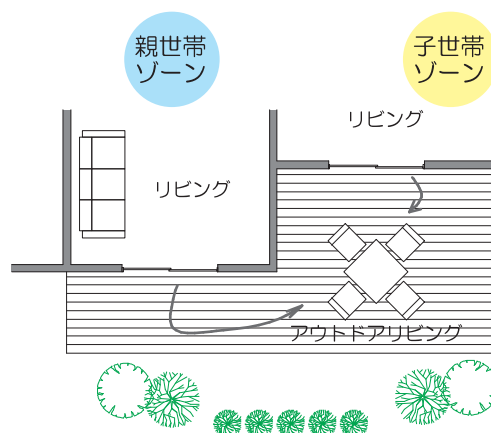
### リビング

- 広めのリビングにコーナーを設けるのがおすすめです。畳コーナー、ソファコーナーなどそれぞれがくつろげる場所があると落ち着きます。



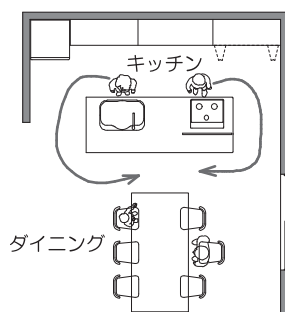
- お互いの来客をリビングでもてなす場合、他方の世帯の居場所がなくなると困ります。共有の客間を設けるか、セカンドリビングなどを計画しましょう。

- 二世帯が交流する場所を考えておくと良いでしょう。親世帯リビングに孫が遊んだり勉強するスペースを用意したり、屋内だけではなく、庭、テラスなどアウトドアリビングを設けたりすれば、両世帯にとって楽しみが増えることでしょう。



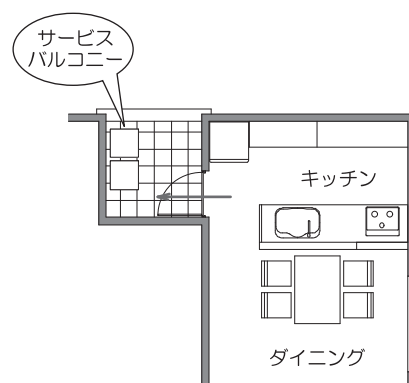
### キッチン ダイニング

- 親世帯、子世帯の好みに応じた食材、二世帯分の食器、調理器具などの十分な収納スペースを確保しましょう。
- 料理をする方が二人以上になる場合、アイランド型キッチンなど回遊型で動きやすい動線を工夫しましょう。



- メインキッチンとは別にミニキッチンなどを設けておけば、来客時なども気兼ねなく過ごすことができます。

- たまには一緒に食事をする場合、どちらか一方をメインダイニングに設定し、大きめに計画しておく必要があります。
- キッチンが2階になる場合は、サービスバルコニーがあるとゴミの一時置場として便利です。

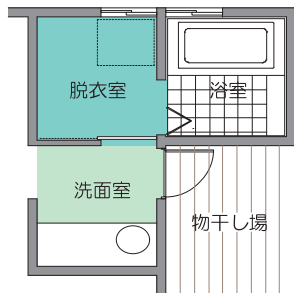


## 共有

## 分離

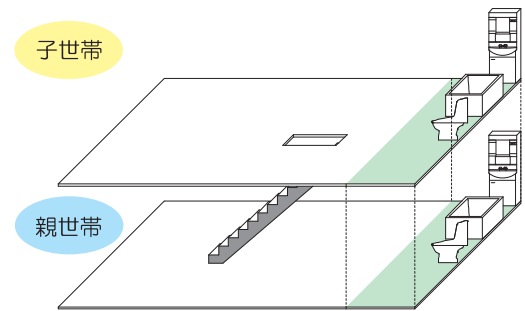
### 浴室・脱衣室

- 入浴中に洗面台が使えない、朝の身支度の時間と洗濯の時間が重なって洗面台が使いにくい、などの不便さを解消するために、洗面、歯磨きを使う「洗面室」と脱衣や洗濯スペースの「脱衣室」を分離すると使いやすくなります。



- 帰宅が遅い家族がいる場合、寝室と浴室は離して配置するなど、遅い時間でも気兼ねなく入浴できるようなプランニングの工夫が必要です。可能であればシャワーブースなどを別に設けることを検討するのも良いでしょう。

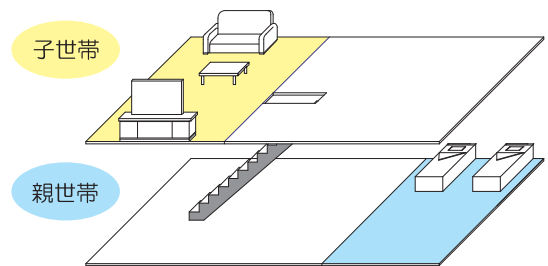
- 1,2階にそれぞれ水回りを計画する場合、騒音に配慮して、上下階で同じエリアに配置すると良いでしょう。



- 洗濯機から物干し場への動線が他方の居住スペースを通らないようにプランニングしましょう。

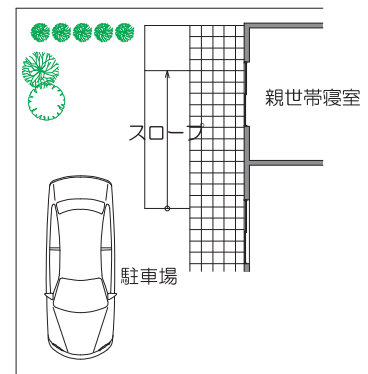
### 寝室

- 音の問題に配慮しましょう。親世帯の寝室の上に子世帯のリビング、子供部屋、浴室、トイレがあったり、寝室の近くに階段があると足音や騒音が気になります。



### バリアフリー

- 将来的に体が不自由になってもできるだけ在宅で暮らすためには、1階だけで生活できるようにするか、2階で生活する場合にはホームエレベーター設置も検討しましょう。
- 手摺、ベンチの計画はもちろん、外部サービスの利用が必要になることも想定して、駐車場から親世帯の寝室へのアクセスを考慮しておくことも大切です。



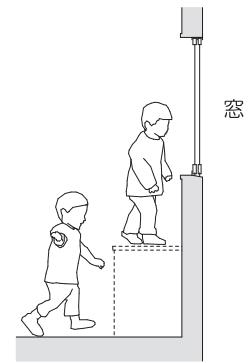
## 共有 分離

### 子育てへの配慮

- 身体や知的能力が発達中の子どもは、大人に合わせたつくりでは使いづらかったり、事故の原因になったりすることもあるので、子どもの身体機能や行動に配慮した環境整備が必要です。
- 特に、乳幼児がいる場合は、事故防止への配慮が大切です。

たとえば…

- 階段や窓等の転落防止
- 建具や水栓等は操作が容易で安全性に配慮した製品を使用
- トイレや浴室など水溜りがある場所への侵入防止（外からの施錠、ふたをする）
- 口に入れると危険なものの収納場所に配慮 など



窓の近くに足がかりとなるような家具などを置かないようにしましょう。

- 家事スペースから居間等の子どもの居場所が見通せるように配慮することも大切です。
- 子どもの成長に対応できる可変性のあるプランニングも必要です。

### 住まい方

- 仲の良い三世代であっても、2つの家族です。どちらかが我慢して不満を募らせている場合もあります。ライフスタイルや生活時間の違いは、住宅のつくり方を工夫することでお互いの気遣いを減らすことは出来ますが、いい関係で同居を続けていくためには、住まい方のルールを決めておくことも大切です。

たとえば…

家事分担をきちんと決めておく！

一緒に食事をする日と料理当番を決めておく。

夜遅くまでの来客には配慮する

経費分担も明確に！

親しき仲にもルールは必要です

お互いのスペースに来るときには、一声かけてから。

子どもの面倒を見てもらうときは事前に相談してから・・・

出掛けるときは一声かけてから。

留守中にお互いのプライベートゾーンに入らない。